

「水上パゴダ」上陸記

宇塚幸生

「パゴダ」とはミャンマーの各地に建立されている仏教寺院の仏塔ことである。ミャンマーの大都市ヤンゴンにも数多くのパゴダがありその代表的なものが黄金に輝く「シェダゴン・パゴダ」①でありその広大な敷地に多くの仏塔がそびえている。そのほか旧市街の街路のロータリーに「スーレー・パゴダ」②があり街のシンボリック的存在となっている。数度の国際会議の合間を見て、郊外に珍しいパゴダがあるというので足を延ばしてみた。



①

ヤンゴンから南へ20km

旧市街からまず東へ車を走らせ、バコー河の鉄橋を渡り南に進む。日本政府の肝いりによるティラワSEZ（特別経済地区）の工業団地③を過ぎて小一時間でチャウタン村に到着した。村というのにふさわしく土産物屋が軒を連ねる程度の簡素な集落だがやたら人は多い。拝観用のグッズを売る売り子がかまびすしい。



②

船着き場にはおびただしい小舟

褐色に染められた水辺には多くの小舟が集まっている。聞けば参拝の功德のため渡し賃は無料で、地元の人々はそれを利用して対岸まで渡ることができる。我々外国人には緑色の幌付きの船が用意されておりガイドに連れられてそれに乗船する。③ 寺院を参拝する時のしきたりにならないことから靴と靴下を脱ぎ素足になる。船頭さんの巧みな櫂さばきで1、2分ほどで対岸の寺院へと到着した。



③

対岸と思ったのは河の中州

船着き場④は階段状になっていて、川の水位にかかわらず着岸できるようになっている。また対岸と思っていたのは大きな川の中州で、島全体が寺院となっている。浮見堂のような建物が張り出し屋根には独特の装飾が並んでいる⑤



④

あらためて全体像を見てみるとこのような景色である。⑥本土からわたる電線がやや趣を損ねるがその雰囲気はお分かりになると思う。



⑥

寺院内と土産

さて、「イエレーパゴダ」と呼ばれるこの寺院は内部でひとめぐりできるようになっており⑦、そこかしこでミャンマーの人たちがお祈りや瞑想にふけている。写真ははばかられたので土産物で求めた「カレンダー」でその全容を紹介させていただく。どこからでもいわゆる「インスタ映え」する写真が撮れそうである。夜間は電飾されこのような美しさ⑧またこのカレンダーにはご本尊様も載っており紹介させていただく。⑨



⑤



⑦

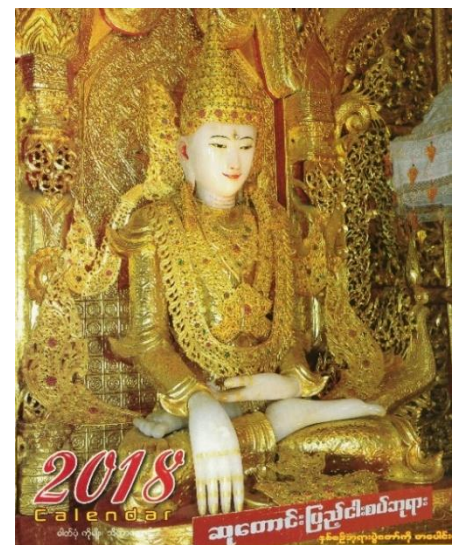


⑧

帰り道にティラワ工業団地やスターシティ

帰り道は同じ経路をたどるが、その途中にティラワ工業団地と高級レジデンスが見学できる。ヤンゴン川の河港に面した工業団地のゲート⑩には日の丸を中心に各国の旗がたなびき⑪ 日本はじめ多くの工場が操業している。一つ一つの敷地は河の氾濫を想定して周囲に土手を巡らせ事業継続を可能にするなど多くの工夫が凝らされている。スズキ、王子製紙、クボタ、ワコールなどの企業が集結している。

また高級レジデンスの「スターシティ」⑫は富裕層や海外駐在員の入居も多いようで、往時の日本住宅公団（現在のU



⑨

R都市再生機構)のスターハウスを伸ばしたような120°の構成配置による住棟が複雑に展開し、現在もお発展中である。



⑩

新たな観光資源として

これらの位置関係を地図に落としこんでみると⑬、ヤンゴンからさほど遠くないところにミャンマーの現代産業や歴史文化を同時に見学することができるルートが想像できる。このような立地の「水上パゴダ」はこれからの観光資源として大いに期待することができるだろう。



⑪



⑫

水上寺院あれこれ

このような水上寺院は世界でも珍しい。これと似たようなものとしてイタリアベネチアのサンマルコ広場対岸にはサンタマリア・デラ・グラッツェ教会⑭がある。写真は大型クルーズ船の上から目線の映像であるが、広い船付場では時折イベントが催されるという。

「水」という異世界との隔たりにより、その象徴性が高められた、東西二つの絶好例といえるだろう。



⑬



⑭